１学期始業式　式辞

生徒の皆さんが、本日こうして新学期を迎えたことを、嬉しく思います。今日から新しい生活のスタートです。１年生はフレッシュな気持ちで、２・３年生は昨年度の反省点を踏まえながら、令和７年度を更なる飛躍の年にしてほしいと願っています。

さて、２・３年生は離任式で前任の瀬尾校長先生から「壺中の天」の話を聞きました。１年生も私が入学式の式辞で言及したので、記憶に新しいはずです。皆さんには、牧南という「別世界」で、思う存分翼を広げ、空高く舞い上がる自分を想像してほしいと思います。

空と言えば、英語の慣用句に「The sky is the limit.」という表現があります。文字通り訳せば「空が限界である」、転じて「自分の限界は、果てしない空の高さに匹敵する」、「可能性は無限大」と言う意味で使われます。私はこの表現がお気に入りだったのですが、数年前アメリカ西海岸のシアトルにある高等学校を訪問した時、これをもじった英語表現に出会い、感心させられました。

シアトルは愛知県と同じく、航空産業が盛んな地域ですが、私が訪問したその高校の入口には「The sky is not the limit.」という校訓が掲げられていました、つまり「空の高さでさえも限界ではない」と言う意味です。「The sky is the limit.」と「The sky is not the limit.」。前者は肯定文、後者は否定文なのに、同じような意味をも

つ表現。英語の奥深さを感じる経験でした。

牧南生の諸君にも「可能性は無限大」の心意気で新学期を過してほしいと思います。

次は、この一週間で残念でならなかったことについて触れなければなりません。それは、離任式での出来事であります。

先週の金曜日、転勤される先生方が離任式を終え、控室で昼食をとっていると、次から次へと生徒が訪ねて来て、記念写真を一緒に撮ってほしいとか、部活動で色紙にメッセージを書いたから受け取ってほしい等々、別れを惜しんでいました。先生方は都度、箸を止めては、廊下に出て対応していました。私はそれを眺めながら、改めて牧南の校風の一端に触れた気がしました。

しかし、本題はここからです。恩師に対する感謝の気持ちをもつ生徒があれだけたくさんいるならば、離任式での校歌斉唱がもう少し盛り上がっていてもよかったのではないでしょうか。歌詞やメロディをうろ覚えという人もいるやに聞いています。

こうした課題認識の下、本日は歌詞の意味を問いたいと思います。歌詞カードを出してください。

第一連の一行目「朝あけの山脈（やまなみ）こえて　空劃（かぎ）る御岳（おんたけ）はるか」は分かりやすいですね。御嶽山は標高三千メートルを超える山で、本校からは 80 キロ程北に空を貫くように

そびえています。また、手前には各務原の山々や尾張富士、尾張本宮山などが広がっていて、歌詞はその様子を表しています。

二行目「永劫の歴史はここに、いま燃えてわれらに生きる」は皆さんの解釈を求めたいところです。すなわち「いま」とは、何を指しているのでしょうか。一回生が初めて歌った時にはこの「いま」は1980年のことです。今歌えば、それは2025年のことになります。また、「ここに」もどこで歌うかによって、指している場所が異なります。本日ここで、歌詞の全ての疑問点を取り上げるわけにはいきませんが、私自身もできるだけ早く校歌を覚え、皆さんと一緒に胸をはって歌えるようになりたいと思います。（歌詞カードはしまってください。）

最後に、ＮＡＳＡアメリカ航空宇宙局が、宇宙飛行士に求めているマネジメント能力を紹介して式辞を終えます。高度なミッションを与えられている宇宙飛行士は、ある程度の突発的な事態にも、自らの力で対応することが求められます。しかし、冷静に現状を分析した上で、自分の力だけでは解決困難であると判断した時には、迷わず他者に助けを求める力をもっていなければなりません。これを「援助希求力」と呼びます。高校生も同じです。特に新学期は新しい環境の中で、ストレスにさらされるリスクが増加します。生徒の皆さんには、適切に自己分析を行い、必要に応じて周りの信頼できる大人に相談をす

る冷静さや勇気をもってもらいたいと思います。近日中に配付される保健だよりも参考にしてください。

　以上、可能性は無限大、校歌を歌おう、援助希求、新学期を迎えた皆さんにこれらの言葉を贈り、式辞とします。